

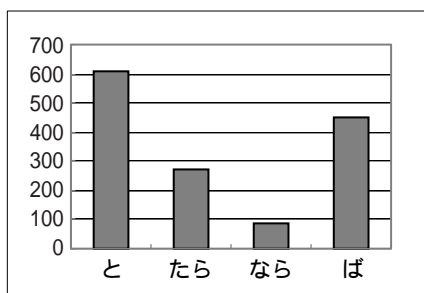
「て形」はテキスト中でどのように使われているか

3種類の異なるテキストでの調査報告

ごう だ
江 田 すみれ

1 はじめに

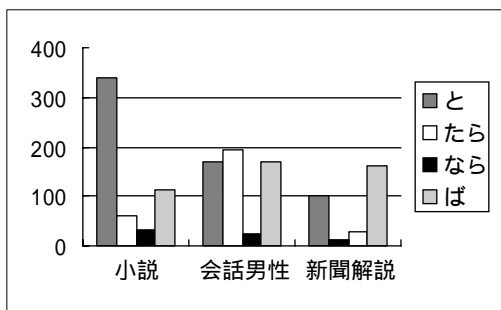
図1 4種の条件表現の現れ方



江田(2005印刷中)は新聞、会話、小説の3種類のコーパスを用いて同じ分量のテキストを用意し、それをもとに条件表現「と・たら・なら・ば」がどのように使われているかを調査した。

すると、左のように、「と」「ば」はかなり多く使われているが、「なら」は非常に少ないことが分かった。また、テキスト別に見ると、図2のように「たら」

図2 テキスト別の条件表現の現れ方



は会話でよく使われるが、新聞ではほとんど出てこないというように、テキストによる文法項目の偏りも見られた。

また、図3から5に見えるように、「と」は、テキストによって使われ方が大きく異なることも分かった。

小説では「事柄の継起」「きっかけ」「発見」「前置き」で全体の3/4を占め、会話では「必

図3 「と」の用法 小説

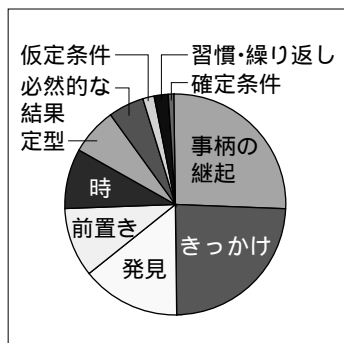


図4 「と」の用法 会話

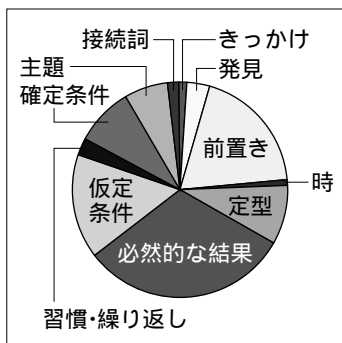
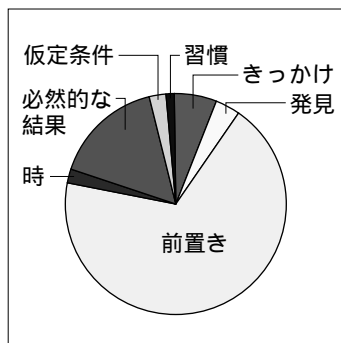


図5 「と」の用法 新聞



然的な結果」「仮定条件」「前置き」が多いのに対し、新聞では大半が「前置き」の用法であった¹⁾。

我々はなんとなく感覚で、ある表現は硬い文章でよく見られ、ある表現は会話的なものであろうと考えている。しかし、上の「と」のように、テキストによって明らかに違う使い方をする表現があるということはあまり意識していない。

日本語教育では、初級は一般的な文法項目を学ぶように作成された教材が多い。しかし、どんな学習者にとっても基本的な文法項目は同じであろうか。会話を中心に学ぶビジネスマンなどの学習者と大学で研究をする学習者の必要な文法項目は同じであろうか。多分共通のものと重点的に学ぶべきものがあるであろう。今回はそういった疑問に答えるために、「て形」についての小さな調査をしてみた。

「て形」は初級の文法の中で重要なものである。「て形」をもとにして作り上げられる文法的な形は数多くある。今回は「て形」について、上記3種類のテキスト、新聞、会話、小説をもとに、どのような形がどのくらい現れているか調べた。

「て形」による節の接続は初級のはじめに教えられ、比較的使いやすい、制限の少ない文型であるため、中級以降になっても他の文型、例えば「と」や「たら」との違いが問題になる。「と」や「たら」などを使うべきところに「て」を使い続ける間違いがよくみられる。こうした問題に対応するには、「て形」接続の用法上の制限を整理しておく必要がある。本稿のもう一つの目的はそこにもある。「て形」の文法的な性質を再度確認しておこう。

2 先行研究

「シテ節」の用法については仁田(1995)は表1のように分類している。

付帯状態は主節の状況をシテ節で表すもの、継起は主節の事柄がシテ節の事柄に続いて起こるもの、と定義している。付帯状態はその定義から主節とシテ節の主語は同一である。継起の中に連続し繋がった存在で時間的継起と起因的継起があるとしている。時間的継起は単純に時間の先後関係であるのに対し、起因的継起はシテ節が主節の原因となっているものである。主体については、時間的継起は同一主体であることが多いが、起因的継起では異主体である割合が高くなるとしている。並列は同じ時間にシテ節の事柄と主節の事柄が同時に存在する。主体は同一の場合も異主体の場合もあると述べ、更に詳しく、それらの下位分類について述べている。

表1 シテ節について

タイプ		シテ節の表す意味	生起時間関係	主体
付帯状態		主たる事象の実現の仕方	同時	同一
継起	時間的継起	時間的先行関係	継起	同一((異種))
	起因的継起	起因的事象	継起	同一(異種)
並列		共存並立する事象	同時((異時))	同一/異種

付帯状態の下位分類としては し手容態 心的状態 し手動作 をあげているが、そのほかに 付属状況 という付帯状態からかなりかけ離れつつある例の存在に注目している。

「て形」はテキスト中でどのように使われているか

(1) 次の部屋に弱い電燈をつけて、息子が眠っていた。(偕老, 仁田より)

また、副詞的なものも存在するとして以下の例を挙げている。

(2) ここであらためてことわるまでもあるまい。(群猿図, 仁田より)

継起については、時間的継起の文は同一主体の意志動詞の連続が多い。無意志動詞を使った場合は起因的継起と解される可能性が強くなり、異主体の継起の文は主節、シテ節共に非情物であったりシテ節の主体が非情物であることが普通だと述べている。

高橋(2003)は、動詞が意味・機能を変え、動詞らしさを失い、動詞の中止形から後置詞へ、副詞へと派生するものがあると述べている。本稿では、「について」「として」などの「て形」の後置詞の用法にも着目した。

「て」・連用形・「と」の出現割合については松田(1985)が、日本語の接続表現のうちもっとも出現頻度が高いものは「て」、連用形、「と」であると述べている。国語の教科書をもとに上記3つの接続表現を数えたところ、「て」、連用形、「と」の割合は500:300:113であったと報告している。

3 調査

使用したコーパスは、新聞はCD-HIASK98、小説は青空文庫の『或る女』、会話は現代日本語研究会による『男性の会話』である。それぞれ15万字ずつ採用し、KWICによって検索をかけ、資料とした。「て」によって節が接続されるもの、「ている」「である」などの「て形」に補助動詞がついたもの、「によって」「として」などの後置詞つまり助詞相当のものを採用し、「て形」は全体としてどのような使われ方をしているか見てみた。「ては」「ても」は別の時に考えることとして、今回の調査からは省いた²⁾。

小説、新聞、会話それぞれ15万字のテキストで、小説では約3800例、新聞では約1900例、会話では約2200例が見つかった³⁾。同じテキスト3者をまとめた全体のテキストでの「と」の数は606例であるので、「て」が本当に数多く使われていることがよくわかる。松田(1985)が「て形」をふくむ節が後の節とともに文を作るという形のものだけ選んだのに対し、本稿ではほとんどすべての「て形」を採用したため、非常に多くの例になった。

これは全部検討する時間がないので、それぞれのテキストから出現順に1000例を取り出し、それについて分析することにする。

4 3種のテキストでの「て形」全体の分布

はじめに、3種類のテキストでの「て形」の使われ方を形の上から見てみる。大きく分けて、「て形」が節を構成するもの、「て形」に補助動詞がついたもの、「て形」が後置詞としての役割を果たすもの、の3分類で考えた。

図6「て形」全体 小説

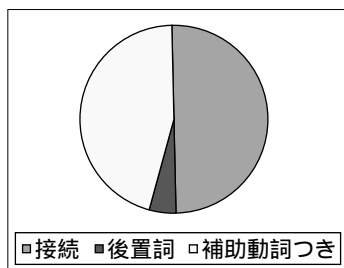


図7「て形」全体 会話

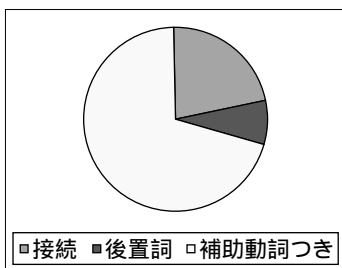
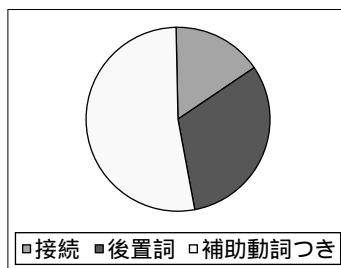


図8「て形」全体 新聞



補助動詞つきの用法が多いのは3種のテキストに共通であるが、それ以外はテキストによって性質の違いが見られる。

表2 「て形」全体 形の上での分類

	小説	会話	新聞
節	493	221	162
後置詞	47	75	308
補助動詞つき	460	704	530
計	1000	1000	1000

小説は節，補助動詞つきがそれぞれ約半数あり，後置詞はわずかである．それに対し，会話では補助動詞つきの使い方が3/4近くをしめており，節の使い方は20%ほどで，後置詞がかなり少なくなっている．新聞では半数以上が補助動詞つきの用法，後置詞の使い方が1/3程度であり，節のなかでの「て形」は16%とかなり少ない．下にそれぞれの例を挙げる．

- (3) 葉子はするとそのほうに近寄って，…改札の目の前で花が咲いたようにほほえんで見せた．(小説)
- (4) 葉子は…はなやかな襦袢の袖をひらめかして，右手を力なげに前に出した．(小説)
- (5) こうして葉子にとっては長い時間が過ぎ去ったと思われるころ(小説)
- (6) ま，努力してもらってとか．協調って書いて．(会話)
- (7) また専安として人員一人おいてあります．(会話)
- (8) 生産地を売却することをめぐっての同意は多数決が有効だと考える．(新聞)
- (9) 運輸省の申し入れに対して，米軍側は…と同様な返答をした．(新聞)

小説は，登場人物の動きや様子を表す文章であるため，(3)のように動作の連続を描写したりする節の用法や，(4)のように動作の行われ方を描く用法が多い．そして(5)のような後置詞の用例はそれほど多くみられなかった．これに対し，会話で補助動詞の割合が高いのは，会話では，(6)のように，一つの文がかなり短く，複文を構成する節の用法が少なくなっているためである．新聞では(8)(9)のような後置詞の例が他のテキストと比べてかなり多い．「にとって」「に対して」「について」「において」などの表現を用いて関係者の関係や情報の出所を述べるという文章の性質のためであろう．

5 節のなかでの「て形」

次に節の中で「て形」はどのような用法が多いのだろうか．意味・働きの点からテキストごとにみてみよう．

本稿では，節の中の用法は，継起，付帯状況，原因理由，状況，時，並列，接続詞，副詞的なもの，前置きと分類した．

付帯状況は，「主節の状況をシテ節で表すもの」という仁田の定義を使った．先に仁田（1995）の付帯状態の下位分類のところで 付属状況 について触れたが，本稿ではこの 付属状況 を付帯状況の下位分類ではなく，「状況」として，一つ分類項目を立てた．それは主節の事柄の状態を描写するというより，ある場面を提示し，その中で主節の事柄が起こることを述べている「状況」は，付帯状況の中に入れるほど主節に付随せず，どちらかというところ，前置きの場面を提供するように見えるためである．

（10）そこにはシェードがおろしてあって，例の四十三四の男が...ばかな顔をしながらまじまじと葉子を見やっていた．（女）

（11）クラブメッド，地中海クラブってなんかあってさ，なんかフランス人たくさん来ててさ，（会話）

上の（10）も（11）も付帯状況とは言えず継起とも考えにくい．数の上でも多少見られたので，「状況」という分類項目を作り，主体の状態ではないものをここにまとめた．

時の用法とは，「て形」が時だけを表している以下のような用法である．

（12）昨年末になって存在に気づいた反対派が「...」として，原発阻止運動の切り札に位置づけたため，事態が深刻化している（新聞）

（13）午後三時すぎになって，確認のためホテルに出向いた署員が午後三時二十四分に新井代議士の死亡を確認した．（新聞）

（14）今になってそんなことを言たってしかたがないじゃない．（会話）

前置きは述べている事柄と直接には関係しない，話者のその話題に対する態度や，事柄を述べる前に必要な前提などを述べているものである．

（15）これ，どんなんやゆうたら，正直いってわかりっこない．（会話）

（16）その青年は名を木村といって，日ごろから快活な活動好きな人として知られた男で，（小説）

（15）（16）については，それぞれ下線部を取り去っても「どんなんやゆうたら，わかりっこない」「その青年は日ごろから快活な人として知られた男で」のように，文としては成立する．このような例を「て形」による前置きとする．

接続詞は以下のような例である．これらは節の中の用法ではないが少数なので，節の部分で述べることにする．

（17）自分の財産となればなるべきものを一部分だけあてがわれて，黙って引っ込んでいる葉子ではなかった．それかといって長女ではあるが，女の身として全財産に対する要求をする事の無益なのも知っていた．（小説）

副詞的なものには「きわめて」「きわだって」「頑として」などがあつた。

節の中での使われ方を見てみよう。

図9 「て形」節内部 小説

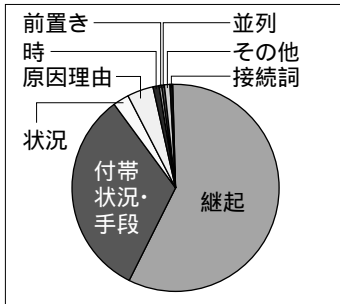


図10 「て形」節内部 会話

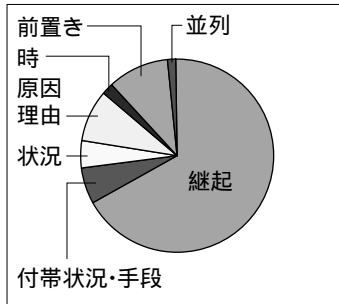


図11 「て形」節内部 新聞

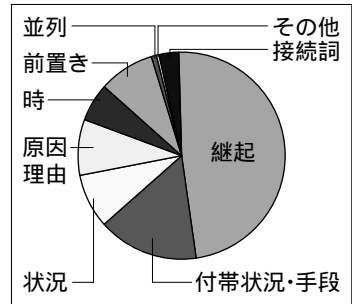


表3 「て形」節の中での使われ方

	小説	会話	新聞
継起	276	142	76
付帯状況・手段	165	13	25
状況	12	10	13
原因理由	19	19	15
時	5	4	9
前置き	1	22	15
並列	4	3	1
その他	4	8	1
接続詞	2	0	5
副詞的なもの	5	0	2
計	493	221	162

節の中の用法でも、テキストによってかなり違いが見られる。もっとも多いのが継起の用法であることはどのテキストも共通しているが、そのほかでは、小説はやはり継起と付帯状況が多く、人の動作の連続、人の動作がどのように行われるかの描写によって文章の大半が占められていることがここでもわかる。

会話では継起が多いが、そのほかに前置きと原因理由が多いのが目につく。

会話の前置きの例を見てみよう。

(18) でー、それから要約のほうに戻りまして、えー、運営委託料控除前利益、でございます。えー、

(19) で、これ部長のほうからコメントがあつてね、「休憩時間ってのほんとはいいいんじゃないか」ってゆう、話があつたんです。

(20) 宗教社会学の発想とゆうのはー、これとは逆でありましてー、宗教を基本的な単位にして考えるのではなくてー、社会とゆうものをー基本にー

われわれは話をするとき、いろいろな形で前置きをし、相手に話を聞く態勢を整えてもらうよう配慮しながら話を次へ進ませていることがこの前置きの例からもわかる。

次に会話の原因理由の用法を見てみよう。

(21) でも、やっぱりモーター音が耳についてね。

「て形」はテキスト中でどのように使われているか

(22) そいでうちに相談があつて、で、うちはまー、ある程度できる範囲のことはしまし
しょうー、と。

会話では「～して」で文を終わらせる形式の表現がよく見られた。仁田(1995)が継起を時間
的継起と起因的継起に二分し、両者の間は連続的であるとしたように、会話の「て形」の原因理
由は文脈に支えられて原因理由と解釈でき、その結果に当たるものは数行はなれたところに出現
するか、あるいは言葉では表現されない例も見られた。例えば(21)は以下のような文脈での発
話である。

A: これはねー、こうゆう昼間の会議室で使ってる分にはおそらく気にならないんだけ
どー、家庭で、たとえば寝るときにねー、こうゆうライトってゆうのもあるんで
す。

B: うん、うん。

A: でも、やっぱりモーター音が耳についてね。

会話では付帯状況の割合があまり高くないという結果も出ている。それは、

(23) クリスマス絵皿がついて、生クリームで、11月1日から11月末までの予約販売を
します。

(24) なんかこんなになつて買い込んだんじやつて、あ、主婦になったみたいって、いやん
なっちゃう。

のような、いわゆる付帯状況の例が意外と少なく、

(25) ～するんだっていうような考え方をする人もいて、それはいいかもしれない。

(26) 計画グループでもいっしょに加わつて、パトロールをおこなってます、とゆうよ
うなことを言って...

など、表3の数字に見られるように、前提的な、「状況」と分類したほうがいい例が多かったこ
とによる。

新聞は節の中での用法が3種のテキストの中では最も少ない文章の形式であるが、節の内部で
は、継起、付帯状況だけでなく、原因理由、時、前置きなどの用法もある程度見られた。

ここでは新聞の前置きの用法を見てみよう。

(27) 候補地が具体化したのを機に、原点に返つて「なぜ移転が必要か」を問い直さな
ければならない。

(28) ガルーダ機事故についても、機長に限定して刑事責任を追及することになった。

他には「総合的な見地に立って」「～の意見も参考にして」「～の側に立って」「原則として」
などであった。会話の前置きが自分の述べようとする事について多少情報を出し、相手に聞く
準備をさせようとする前置きであるのに対し、新聞の前置きでは、一定の見方や考え方の方向を
示すものが見られた。

後置詞は「に対して」「にとって」「として」などそれぞれの意味で役割を果たしているが、中
には前置きの機能も持っているものもある。

(29) 委員らの役割は、...専門家として、ごみ処分場の建設で、干潟の豊かな自然環境
...が取り返しがつかない状態にならないか、科学的に判断することだ。(新聞)

(29) は「専門家として」を省いても「委員らの役割は...判断することだ」と、文として成立

する．このような後置詞を前置きとしても数えてみる．

後置詞の中の前置きを上の節の中に含めてグラフを再度作ってみよう．

図12 節内部2 小説（後置詞の前置き含む）

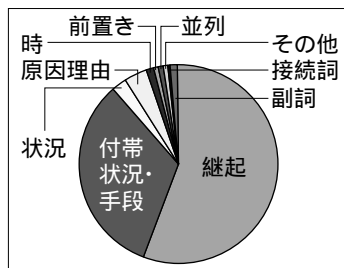


図13 節内部2 会話

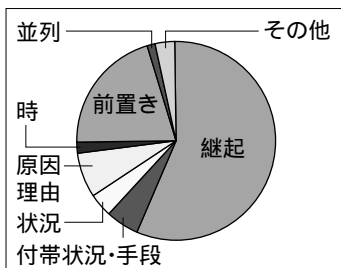
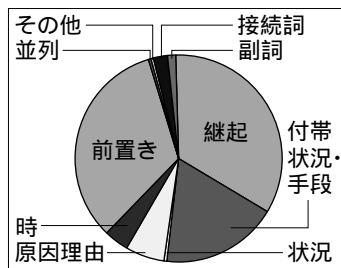


図14 節内部2 新聞



小説はほとんど変化しないが，会話，新聞では前置きの占める割合がかなり高くなる．特に新聞では継起の用法とあまり変わらないほど，前置きが多くなる．後置詞の前置きを見てみよう．

(30) 平和条約交渉で焦点となる北方領土問題について日本政府は，今春の日口首脳会談など今後予定されている協議で…（新聞）

(31) 室内でも高濃度汚染が確認されるなど，条件によっては，発生源の除去や定期的な換気などが必要なことを示している．

従来の初級教科書では「て形」は継起・付帯状況・原因の用法を教えているが⁴⁾，中・上級になって気配りのある会話をしたり新聞などの文章を読んだりするようになったときには前置きの用法を身につける必要があるであろう．会話は話の内容を予告し，相手に配慮する前置き，新聞は論についての捉え方を述べる前置き，どちらも例を上げ，使えるように指導していきたいものである．

並列については，どのテキストも非常に用例が少なく，「て形」では並列は重要でない用法であると言えるようである．

6 「て形」のそれぞれの用法について

前節ではテキストごとに「て形」がどのように使われているかを見てみた．今度はそれぞれの用法について基本的な性質をまとめておこう．

継起はこれまで仁田（1995），松田（1985）など多くの研究者が指摘してきたように，基本的には同一主体の意志動詞による行為の連続で用いられる．しかし，10%以下だが前項に無意志動詞を使う場合もある．

表4 「て形」の継起用法中の前項動詞

	総数	意志動詞	無意志動詞
小説	276	251	25
会話	142	133	9
新聞	76	74	2

(32) もうどうしていいかわからなくなって，子供のように泣き続けると，そのうちに

また眠くなつて一寝入りしますのよ。(小説)

(33) 代わりに、書斎では内田がいすを離れた音がして、やがて内田はずかずかと格子戸をあけて出て行ってしまった。(小説)

(34) 金額よりも若干、えー、経理数字が加わりまして、円ほど加わりまして、円。(会話)

(35) 90年には一時冷却系に空気が入ってナトリウムの純度が下がるトラブルで運転が中止された。(新聞)

意志動詞以外では(32)のように変化を表す表現、(33)のように感情感覚の表現は前項に使えるようである。「急にはずんだ調子になって」「輪郭が輝き出して」「どすんと横隔膜につきあたるような心地がして」などの例がみられた。また、仁田(1995)で触れられているが二つの無意志的な事柄も可能である。後項は(34)(35)のように二つの事柄の連続を表現する場合以外は意志的な動作動詞が使われる。

学習者の作る以下のような文は「て形」の継起の用法の、基本的には前項後項共に動作性の意志動詞という制限に違反しているものである。

(36) ×それで、いろいろなところ遊びして、...その中ひとつことは感動しました。

(37) ×今年からこの大学の一員として勉学にはげむつもりで、特に日本語に確実的に力を入れたいです。

次に、「てから」について触れておこう。初級では「てから」について、「顔を洗ってからご飯を食べます」のように動作動詞の「て形」の文の中に入れて教えることが多い⁵⁾。しかし、実際の継起の文を集めてみると、

(38) 父や母が死んでしまってから、...親類たちから余計な世話を焼かれたり(小説)

(39) そんな事があってから5年すぎた今日...(小説)

(40) きのうの風が強いでから、気温は急に夏らしい蒸し暑さに返って...(小説)

のように、「てから」は無意志動詞、状態動詞の前項について、事柄を原因理由や付帯状況でなく、継起であると明示する役割を果たしている。事実、(38)から「から」ととると、

(38) b父や母が死んでしまつて、親類に余計な世話を焼かれた。

のように、「て」は原因の意味になる。「てから」については、中級などの語彙が増えた段階で使い方を整理すると、学習者にとって有益であろう。

次に付帯状況をみてみよう。小説では

(41) 物事にふけりやすい葉子は身も魂も打ち込んでその仕事に夢中になった。

(42) 貞世は朝からふきげんになってだれのいう事も耳に入れずに、自分の帰るのばかりを待ちこがれていたに違いない。

(43) あっけに取られて、黙ったまま引き下がって見ているんですから

仁田(1995)の言うように「し手容態」「心的状態」「し手動作」などの例が見られた。

(41)(43)では前項に動作動詞が使われている。継起との違いは、仁田(1995)は、結果の状態を表現できる結果動詞は付帯状況となり、そうでない動詞は継起と読まれると述べている。それは継起と付帯状況との違いを見分ける一つの見方である。しかし、例えば以下のような結果動詞でない付帯状況の例も珍しくなく見られた。

(44) 泣きたい時でも笑って通していると、こんな...気まぐれ者になるんです。

(45) たよりなげな表情を見せるのを忘れないで、言葉少なにそれらの人に挨拶した。

一方新聞では

(46) 健康への影響を調べるほか、建設省と協力して対策に乗り出す方針だ。

(47) NTTがIDCと手を組んで国際通信の進出を加速させることによって、NTTの寡占化をいっそう進めるのではないか。

(48) 国と県が対立して時間を浪費している余裕はない。

主節の事柄の進み方とでもいうような付帯状況の文が見られた。これらの前項の動詞は結果動詞とはいえないものもかなりある。形の上から継起と付帯状況を分けることは難しく、結局は文脈、意味の上から判断するしかないであろう。

(49) 一見自立して日常生活を送れそうに見えるのに、

(50) 独立して生活するのは危険で、

や「一括して解決金を支払う」のように、副詞にかなり近い例も見られた。付帯状況と一口に言うが、テキストによってそれなりに語彙教育は必要である。

前項が状態性のものになると、さらに付帯状況から遠くなり、前置きに近い、本稿で「状況」とした一群の文になる。

(51) 1ヶ月600点あって、それをどうしますかってゆうんだったらそれは違うよー。

(会話)

(52) 日本にも潜んでいて、ひとに感染している疑いが濃い。(新聞)

初級では「めがねをかけて本を読む」などの比較的一般的な表現で教え、その後は学んだものとされているいろいろなものを読んでいくことになるが、結果動詞でない付帯状況、「状況」に近いような用法は意識してしっかり学ぶ必要があるであろう。

なお、補助動詞付きの「て」については、多少調査をしたが、稿を改めて書くことにする。

7 まとめ

・形の上から言うと、どのテキストにおいても最も多いのは補助動詞付きの「て形」だが、そのほかでは、節の用法と補助動詞付きが半々の割合の小説、3/4ほどが補助動詞付きで残りの多くの部分を節の形が占める会話、後置詞が多い新聞と、テキストによって「て形」の使われ方の分布はかなり異なっていた。

・節の中での用法では、継起がどのテキストにおいても多いが、そのほかでは、会話で前置き、新聞では付帯状況・状況・原因理由・前置きなどの用法が見られた。

・前置き、付帯状況などについては、テキストによって使われ方や語彙が異なる。重要性を認識して、中級に入ってから、きちんと使えるよう指導した方がいいであろう。

注

1) それぞれの例文を記す。

・田川博子は夫人の言葉を聞くと、もっともというふうにな、三度こっくりうなずいた。(女)(事柄)

の継起)

・高裁の法廷に裁判長の声が響くと、傍聴席を埋めていた約30人のお年寄りらは次々と席を立った。(新聞)(きっかけ)

・白いガーゼを取ると、のどを真横にかき切ったような傷跡と一円ほどの大きさの赤く暗い穴が開いている。(新聞)(発見)

・仮病を使って宿屋に引きこもったのも、実をいうと、船商売をする人には珍しい厳格なこの永田に会う面倒を避けるためであった。(女)(前置き)

2) 「てもいい」「てはいけない」「～てはどうか」などの条件表現としての「ても」「ては」は条件表現のところで扱うことにするため、今回は対象外とした。しかし、「て」に「も」がついたもの、例えば「お客さんの反応としてはー、よりものほうが重視されるようです」のようなものは採用した。

3) 実際には小説では3833例、会話では2253例、新聞では1925例が得られた。しかし、今回の調査は1000例を対象にしたので、例を全部は見えておらず、これらの中にはまだ多少「分らないんで、聞いてみました」のような他の用法が混ざっている可能性があるので概数で示した。

4) たとえば、『みんなの日本語』では、継起が16課、付帯状況が34課、原因理由が39課で提出されている。

5) たとえば、『みんなの日本語』初級1では16課で「てから」を扱っているが、以下のような文型練習を提出している。

例：電話をかけます・友達のうちへ行きます

電話をかけてから、友達のうちへ行きます。

1) 銀行でお金を出します・買い物に行きます

2) 仕事が終わります・飲みに行きませんか

3) お金を入れます・ボタンを押してください

4) 日本へ来ました・日本語の勉強を始めました

16課では提出されている動詞が少ないので、動きのある、いわゆる動詞的な動詞を使うことになるとのだろうが、その後も変化や状態と共に「てから」を使うという指導は明確になされていないようである。

参考文献

仁田義雄(1995)「シテ形接続をめぐって」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版

江田すみれ(2005印刷中)「テキストの種類による条件表現の現れ方」『ヨーロッパ日本語教育』10

梶井恵子(1997)『日本語の機能表現形式「て形」のすべて』凡人社

高橋太郎(2003)『動詞九章』ひつじ書房

松田剛史(1985)「「て」、連用形、「と」の分布」『大谷女子大國文』15号

前田直子(1991)「条件文分類の一考察」『日本語学科年報13』東京外国語大学

吉永 尚(2005)「テ形接続に見られる誤用について 継起と因果の意味決定とは？」『2005年度日本語教育学会秋季大会 予稿集』日本語教育学会

『みんなの日本語 初級』『みんなの日本語 初級』(1998)スリーエーネットワーク

資料

現代日本語研究会編(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房

朝日新聞社(1998)『CD-HIASK 98』紀伊国屋書店

有島武郎(1919)『或る女』青空文庫